

ジョージアの歴史

190526

| グルジア人支配 | 外人支配 | 宗教 | 年号 | 出来事 |
|--------------|----------|-----|---------------|---|
| | | | 約160～180万年前 | 21世紀になって、トビリシ南西部のDmanisiで、アフリカ大陸外では最古の人類化石が発見される。アシュール文化、ムスティエ文化の遺跡も発見されており、 グルジア近辺はアフリカからヨーロッパ大陸へ人類が移動した最初の地と考えられている。 |
| | | | BC6000～BC5000 | コルクス盆地やフラミ渓谷、南オセチアなどグルジア各地で新石器時代の遺跡が発見されており、本格的な定住生活と穀物栽培が始まったようだ。小麦、ライ麦は、コーカサス地方は発祥地とされている。 牧畜、ぶどう等の果樹の栽培もおこなわれ、グルジアワインもつくられていたようで、アルメニアと並び「ワイン発祥の地」といわれる。 |
| | | | BC1700 | 小アジアに成立した王国ヒッタイトは、「クルガン仮説」によれば、ザカフカス地方を經由して移動したインド・ヨーロッパ語族が中心となって建国された国と推定される |
| | ウラルトゥ王国 | | BC1000 | 現在のジョージア人の祖先は、ニネヴェ図書館収載のアッシリアの年代記に登場する。のちにはアッシリアに北接して勃興するウラルトゥ王国(アララト王国)の楔形文字で刻された年代記にも登場する。 |
| | | | BC900 | ウラルトゥ(アララト山)の要塞の遺跡 |
| イベリア王国(ムツヘタ) | | | BC700～BC600 | ウクライナで生活していたキンメリアとスキタイのアナトリアに侵入するとアナトリア方面から駆逐された諸部族がクラ川流域に殺到して土着の人びととのあいだで交流・混合が進んだ。これによって後のイベリア王国の民が形成された。 |
| コルクス王国(クタイシ) | | | BC600～BC200 | <ul style="list-style-type: none"> ☞ 黒海とカスピ海を結ぶ交易路が通り地中海とペルシャを結ぶため貿易が盛んであった。 ☞ 現在、イスラム圏でありクタイシが首都で黒海岸のスフミ、ポティ、バトゥミが主要都市である。 ☞ グルジアは、プロメテウスの伝説や上述の金羊毛探検にかかわるアルゴ船漂流記など古代ギリシャ神話の舞台となり、グルジア西部を流れるリオニ川は、ギリシャ人には「ファシス川」として知られる。 |
| イベリア王国(ムツヘタ) | | | BC302 | <ul style="list-style-type: none"> ☞ 最初の王は、アレクサンダー大王(BC356～BC323)に対抗したとされるパルナヴァズ1世(BC326～BC234)である。 ☞ 首都は、トビリシ北西20kmのムツヘタ、クラ河がアラグヴィ川に分岐するところ。 ☞ 首長ムツヘトスに由来する。 |
| | ローマ帝国 | | BC65 | <ul style="list-style-type: none"> ☞ BC200に、ポントス王国のミトラダテスにより占領されるが、ポントス王国がポンペイウスに敗れローマの属領となった。 ☞ 西グルジアでイエスの12使徒たちがキリスト教布教活動を行う。 |
| イベリア王国(ムツヘタ) | | 正教会 | 300 | <ul style="list-style-type: none"> ☞ キリスト教が創始され、グルジアで十二使徒による福音伝道がおこなわれ、ローマ支配の揺らいだ3世紀から4世紀にかけては、カッパドキア出身の聖女ニノ(296～338)の布教により大幅に信者が増加した。 ☞ ミリアン3世により、首都ムツヘタに、スヴェティツホヴェリ教会が建立された。 ☞ 301、アルメニアで、キリスト教が国教となった。 ☞ 330、ミリアン3世(265～361)によってキリスト教が国教となった。ジワリ修道院が建設された。 ☞ 350、アゼルヴァイジャンでは、キリスト教が国教となった。 |
| | ササン朝ペルシャ | | 363 | <ul style="list-style-type: none"> ☞ ローマ帝国がササン朝との戦いに敗れ、イベリアは再びササン朝ペルシャ治下に。 ☞ 392、テオドシウス帝によってローマ帝国の国教となった。 |
| イベリア王国(トビリシ) | | 正教会 | 482 | <ul style="list-style-type: none"> ☞ 482、ペルシャ人から剛勇で恐れられたヴァフタンク1世(440～502)によって主権が回復され、トビリシの都市的発展が始まった。 ☞ 522、ヴァフタンク1世の子のダチ王が父の遺言にもとづきムツヘタからトビリシへの遷都をおこなった。 |
| | ビザンティン帝国 | | 627 | ビザンティン帝国の支援を受けたブルガル軍によりトビリシが占領された。 |

| 出来事 | 年号 | 宗教 | 外人支配 | グルジア人支配 |
|---|------|-----|------------------------------------|---------------------------|
| イベリアはゾロアスター教のササン朝ペルシャの支配下になり、トビリシが陥落。 | 645 | | ササン朝 ペルシャ | グルジア人支配 |
| イスラムのウマイヤ朝アラブ軍によって侵略される。「ムスリムの征服」を受け、これによってトビリシ首長国が成立した。カフカス地方にもイスラムの教義がもたらされたが、広い山岳地帯をかかえるグルジアへの流入は限定的で、キリスト教信仰が守られた。 | 736 | | ウマイヤ朝 アラブ | |
| バグラティオニ家が台頭し、9世紀初頭には、この家から大公アショト1世(在位:813年-826年/830年)が現れた。グルジアは再びアラブ支配下に置かれたが、バグラティオニ家はイスラム帝国や東ローマの退潮に乗じて徐々に自立性を強めていった。 | 853 | 正教会 | | イベリア王国 (トビリシ) |
| <ul style="list-style-type: none"> ☞1008, バグラト3世(960~1014)がカヘティ地方を除く全グルジアを統一し、グルジア王国の初代の王になり、バグラト朝が成立し、ギオルギ8世までグルジア王国の王としてバグラト王朝が続く。 ☞1089, 建設王ダヴィド4世(1073~1125)は、北カフカスのキプチャク人を移住させて親衛隊を組織し、軍制改革をおこなってグルジアを強固な国家に改造し、セルジューク朝に勝利、 ☞1096年、セルジューク朝に対する貢納の支払いを停止し、12世紀に入ってからカヘティ郊外のイメレティア丘陵にゲラティ修道院と付属の王立学校(アカデミー)を創立した。バグラディ大聖堂建設。 ☞1122まで、バトウミから150km南東のカヘティがグルジア王国の首都となる。 | 1008 | 正教会 | | グルジア王国 (カヘティ) |
| <ul style="list-style-type: none"> ☞1122, ダヴィト4世(1073~1125)は、セルジューク朝からトビリシを奪還し、カヘティからトビリシに遷都。 ☞1156, ギオルギ3世はセルジューク朝を攻撃してこれに勝利し、1161年から1162年にはアルメニアにも侵攻してアニとドヴィンを占領するなど強勢をほこった。 ☞1184, タマル女王(1184~1213)の時代、ザカフカス全域を支配する強国に発展し、黄金時代になった。 ☞文化・学術の面でも最盛期であり、ヴァルジアの洞窟都市、ゲラティ修道院他多くの修道院が寄進され、とくに文学分野の充実と教会建築の発展が顕著であった | 1122 | 正教会 | | バグラト朝 グルジア王国 (トビリシ) |
| ルスダン女王(在1223~1245)治下、ホラズムの支配者ジャラルルーッディーン・メングベルディーがグルジアに侵入し、1226年、首都トビリシが占領されて略奪を受けた。 | 1225 | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ☞1236, チオルマゲン率いるモンゴル軍が再びグルジアに侵攻し、ルスダン女王はカヘティへの避難を余儀なくされた。 ☞1246, カラコルムで第3代皇帝グユクの即位式があった。 | 1236 | | モンゴル帝国 | |
| ゲオルギ5世(1299~1346)は、イルハン国のモンゴルを放逐し東西に分裂していたグルジアを統一。 | 1335 | 正教会 | | グルジア王国 (トビリシ) |
| <ul style="list-style-type: none"> ☞1386, イスラム教であるティムール帝国(1370~1507)の攻撃によりトビリシ没落。 ☞1380, ティムール帝国が侵入。1386-1403 ティムールが中央アジアから計8回来襲。 | 1386 | | ティムール 帝国 | |
| 1444, トビリシがペルシア軍によって侵略を受け、東部でカヘティ王国が独立して、グルジア王国はついに崩壊して分権化が進行し、無政府状態に陥った。1453年、東ローマ帝国が滅亡する。 1490, グルジア王国は、東部がサファヴィー朝(1501~1736)支配下でカヘティ王国とカルトゥリ王国、西部がオスマン帝国(1299-1922)支配下でイメレティと5つの公国に分裂。 | 1490 | | サファヴィー 朝ペルシャと オスマントル コが支配 | |
| カヘティ王国のエレクレ2世(1720~1798)は、南進するロシア帝国とギオルギエフスク条約を結び、ロシア帝国の保護領になる。 ☞ギオルギエフスク条約は、独立を保障し、イランとトルコの侵略から逃れるために、同じキリスト教国家のロシア帝国(エカテリーナ2世)の保護領となる。 | 1783 | | ロシア帝国 | |

| 出来事 | 年号 | 宗教 | 外人支配 | ゲルジア人支配 |
|---|---|-----|----------------|------------------------|
| ☞1796、ロシアの援助なくカジャール朝ペルシャ(1796~1925)の攻撃に会い支配される。 | 1796 | | ガジャール朝 ペルシャ | |
| ☞1878、アジャリア地方を含む全ゲルジアがロシアに併合。 | 1878 | | ロシア帝国 | |
| ロシア内戦中に、ゲルジア・メンシェビキがゲルジア民主主義共和国独立宣言するが。 ☞1921、ソヴィエト赤軍第11軍がトビリシに侵攻して支配される。 ☞1922、レーニンの健康状態が悪化。ゴリ生まれのヨシフ・スターリン(ジョセフ・ジュガシュヴィリ)が党書記長に。 | 1918 | | ソヴィエト連 邦 | |
| ☞1991、ソ連から独立する。 ☞2004、首都トビリシに至福三者大聖堂という最大級の正教会が出来た。 ☞2009、トビリシの至聖三者大聖堂において、スペインにあった旧王家ムフラニ家のダヴィッド・バグラチオン・ムフラニ(ジョージアの旧王室の当主・王位継承者ともう一つの王統ゲルジンスキ家のアンナ・バグラチオン・ゲルジンスキ王女との結婚式が、盛大に執り行われた。旧カヘティ王国のゲルジンスキ家と旧カルトリ王国のムフラニ家の王族同士の結婚は、王家の統合を意味した。ゲルジア正教会の総主教イリア2世は、かねてより立憲君主制への復帰を求めてきたが、その実現にはさまざまな困難があると指摘されている。 ☞ゲルジンスキ家とムフラニ家は長年王位継承を巡って争っており、アンナ王女の父ヌグザル・バグラチオン・ゲルジンスキとダヴィッドの間でもその問題が解決することはなかった。 ☞1991、コーカサス山脈のなかに、イラン系と言われるオセット人が、ロシア領の北オセチアとゲルジア領の南オセチアにまたがって居住している。南オセチアには、ゲルジアに帰属反対の人が多。 | 1991 | 正教会 | | ジョージア 共和国 (トビリシ) |
| ゲルジアの河川 | 古都ムツヘタを通過してカスピ海に流れるクラ河。黒海に流れるバトゥミにリオニ河。 | | | |
| ゲルジアの山脈 | コーカサス山脈は、黒海ソチ近郊からカスピ海にかけての山脈。最高峰が、ソチから東150kmにある5642 ^m のエルブルス山である。 | | | |
| ゲルジアの人口 | 430万人で、84%がゲルジア人。 | | | |
| ゲルジア 近郊の山々 | アララト山は、エレヴァン西50kmのトルコ領内にあり5137 ^m ある。小アララト山は、3896 ^m である。 トルコのトロス山脈は、チグリス河の上流から流れている。カッパドキア盆地の近郊の3916 ^m のエルジャス山、を含んで、地中海に流れている。 イランのザグロス山脈は、イラン南西部でトルコ国境からインド洋にかけてイラン南西で。最高峰が、イスファハーンの西100kmにある4548 ^m のザグロ山である。 イランのアルボルズ山脈は、タブリーズ近郊からカスピ海の南側を通過してマシュハドまでの山脈。最高峰が、テヘラン北東66kmにある5610 ^m のダマーヴァンド山である。 | | | |